



あの記事は今 No.8

100人の常人よりも1人のおもしろい人

館林市 経済部 商工課

■ 前回(112号)の振り返り

おっ!! まっちゃん〜どおーさま。

前回、館林市は群馬県全体の自動車保有率の平均を超えて、車への依存度が特に高く、まちなかには人が歩かなくなり、中心市街地の衰退がより加速しているとお話しました。そうした状況を解決するために、まちなかにある空き家、空き店舗、公共空間などの遊休不動産を活用して、まちに変化をもたらす、官民連携して、自分たちの欲しい暮らしをつくる「たてばやしリノベーションまちづくり」がスタートしたことをお伝えしました。

■ リノベーションスクールとまちの動き

2018年12月と2019年10月の2回にわたって、リノベーションスクールを開催しました。市内のみならず、全国から受講生が集い、つながり、まちの課題に向き合う3日間を通して、「受講生」は「仲間」になりました。そして、主体性をもって、まちを自分ごととして捉え、「あったらいいな」と思う、コトやモノをまちに創出しようとしています。

1回目のスクールで提案のあった「SORANOMONシアター」は昨年12月に一般公開の屋外上映会を成功させました。今春には「TATEBAYASHI PUBLIC HOUSE」がオープンし、続けて駅前「TARGET」もオープンする予定です。1回目のスクール対象物件はすべて実現化に向けて進んでいます。

2回目のスクールは、商店街の空き店舗や、70年余り地域に愛されながらも昨年に閉店した店舗が対象物件となりました。スクールが終わって間もなく、物件の1つを試験的に空き家バルとして明かりを灯し、『最初の晩餐』として、まずは空き家を使って楽しむことを発信しています。

■ 館林初「家守舎」の誕生

江戸時代、不在地主に代わって家屋を管理した人のことを「家守^{やもりや}」といいます。店子の相談ごとや、冠婚葬祭などの公共の役割を担い、「いいまちにはいい家守がいた」そうです。その現代版家守として、空き家と創業者(プレイヤー)をつなぐキーパーソンが館林市に現れました。初の家守舎の誕生が、なにかを始めたい人、欲しい暮らしを手に入れたい人の、チャレンジを後押しする支えになると期待しています。

■ これからのまちづくり

人口減少に加えて、人の流れの東京一極集中が続きます。きっと、これは止めることのできない流れです。そうであるならば、マクロでは都心に人が集中したとしても、ミクロでは、おもしろい人が館林市に集結する構造を作りたいと思っています。

「100人の常人よりも1人のおもしろい人」が来てくれること、前向きで良い意味での「変態」を迎えることを目指し、1人1人のハートに突き刺さる、仕組みと仕掛けを届け続けます。2020年、おもしろい仲間のおもしろい発想とチャレンジで駆け抜けます!

え、もう終わり? あ〜あ。館林市の「おもしろい」をもっとお伝えしたかったのに紙面が足りません。もっともっと知りたくなったあなたは、きっと「おもしろい人」です。さあ、一緒に仲間になっておもしろいことしませんか? 館林で、おまっちゃん〜していま〜す!!



SORANOMONシアターの公開上映



最初の晩餐(中央は不動産のオーナー)



おもしろい人が集結するまちに



リノベーションまちづくりの仲間たち



Facebook

たてばやしリノベーションまちづくりの「これまで」と「これから」の情報を配信しています。また、リノベーションスクールの公開プレゼンの様子はYou tubeからご覧いただけます。「リノベーションスクール たてばやし」と検索してください。